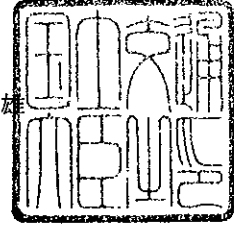


認定書

国住指第2302号
平成 18年 1月 5日

田島ルーフィング株式会社
代表取締役社長 田島 国雄 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第63条並びに同法施行令第136条の2の2第一号及び第二号(防火地域又は準防火地域内の建築物の屋根)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

DR-0256

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

アクリル樹脂系塗装／塩化ビニル樹脂系防水シート・ウレタンフォーム・合板重表張／木製下地
屋根

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

アクリル樹脂系塗装／塩化ビニル樹脂系防水シート・ウレタンフォーム・合板重表張／木製下地屋根

2. 申請仕様の形状・寸法等

申請仕様の概要を表1に示す。

表1 申請仕様の形状・寸法等

項 目	申 請 仕 様
形状	シート防水材葺き形状
支持部材の間隔	455mm以下（木製下地の場合）
支持部材の傾斜角度	0° 以上30° 以下

3. 申請仕様の主構成材料

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項 目	申 請 仕 様																												
アクリル樹脂系塗料	アクリル-ウレタン樹脂系塗料： 固形量114g/m ² 以下、またはなし (ポリイソシアネート：アクリルポリオール=2：3)																												
塩化ビニル樹脂系防水シート	厚さ1.5（-0.15）～2.5（+0.3）mm 質量2.15～3.33kg/m ² （JIS A 6008） 表面の形状：平滑または凹凸加工（凹凸最大高さ0.09mm） (1) 塩化ビニル樹脂（表層）：質量0.54kg/m ² <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>塩化ビニル樹脂</td><td>60質量%</td></tr> <tr><td>可塑剤（フタル酸エステル）</td><td>35質量%</td></tr> <tr><td>安定剤</td><td>3質量%</td></tr> <tr><td>顔料等</td><td>2質量%</td></tr> </table> (2) 塩化ビニル樹脂（中層）：質量0.59～1.71kg/m ² <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>塩化ビニル樹脂</td><td>40質量%</td></tr> <tr><td>可塑剤（フタル酸エステル）</td><td>30質量%</td></tr> <tr><td>充てん材（炭酸カルシウム）</td><td>25質量%</td></tr> <tr><td>安定剤</td><td>3質量%</td></tr> <tr><td>顔料等</td><td>2質量%</td></tr> </table> (3) ガラス繊維ネット：厚さ0.17mm、質量：30g/m ² 織り方：組布、糸の密度：たて5本×よこ5本/25mm (4) 塩化ビニル樹脂（裏層）：質量0.99～1.88kg/m ² <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>塩化ビニル樹脂</td><td>40質量%</td></tr> <tr><td>可塑剤（フタル酸エステル）</td><td>30質量%</td></tr> <tr><td>充てん材（炭酸カルシウム）</td><td>25質量%</td></tr> <tr><td>安定剤</td><td>3質量%</td></tr> <tr><td>顔料等</td><td>2質量%</td></tr> </table> ※塩化ビニル樹脂系防水シートの断面を図1に示す。	塩化ビニル樹脂	60質量%	可塑剤（フタル酸エステル）	35質量%	安定剤	3質量%	顔料等	2質量%	塩化ビニル樹脂	40質量%	可塑剤（フタル酸エステル）	30質量%	充てん材（炭酸カルシウム）	25質量%	安定剤	3質量%	顔料等	2質量%	塩化ビニル樹脂	40質量%	可塑剤（フタル酸エステル）	30質量%	充てん材（炭酸カルシウム）	25質量%	安定剤	3質量%	顔料等	2質量%
塩化ビニル樹脂	60質量%																												
可塑剤（フタル酸エステル）	35質量%																												
安定剤	3質量%																												
顔料等	2質量%																												
塩化ビニル樹脂	40質量%																												
可塑剤（フタル酸エステル）	30質量%																												
充てん材（炭酸カルシウム）	25質量%																												
安定剤	3質量%																												
顔料等	2質量%																												
塩化ビニル樹脂	40質量%																												
可塑剤（フタル酸エステル）	30質量%																												
充てん材（炭酸カルシウム）	25質量%																												
安定剤	3質量%																												
顔料等	2質量%																												

つづき

ウレタンフォーム	以下の仕様またはなしとする。 硬質ウレタンフォーム保温板 (JIS A 9511) : 厚さ150mm以下 (板厚さ50mm以下を3枚以下重張り) 質量5.4kg/m ² 以下、密度38.6kg/m ³ 面材：ガラスマットラミネートフィルム 厚さ0.25 (±0.05) mm、質量75 (±5) g/m ² (片面当り)
下地	(1) または (2) 何れかの仕様とする。 (1) 木製下地 ・野地板：普通合板 (JAS) 厚さ9mm以上×2枚張り ・支持部材 (たる木)：一般製材 (JAS) 大きさ：幅30mm×高さ40mm以上、施工間隔455mm以下 (2) コンクリート製下地 1) ~3) の何れかの仕様とする。 1) 軽量気泡コンクリートパネル (JAS A 5416、ALCパネル) 厚さ50mm以上 2) プレキャストコンクリート：厚さ50mm以上 3) 鉄筋コンクリート：厚さ50mm以上

単位 mm

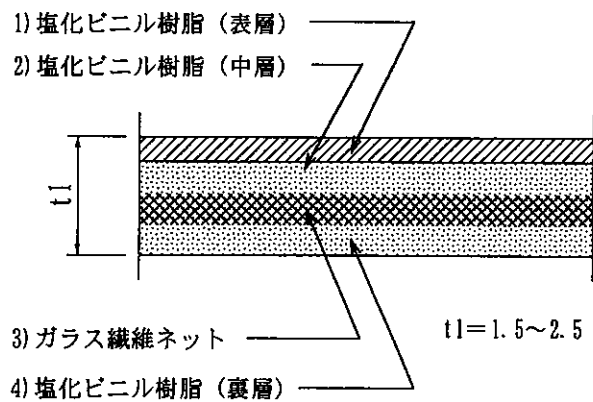


図1 塩化ビニル樹脂系防水シートの断面図

4. 申請仕様の副構成材料

申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 申請仕様の副構成材料

項目	申請仕様
防水シール	塩化ビニル系樹脂：固形量4g/m（防水シートの目地長さ当り） 塩化ビニル樹脂 60質量% 可塑剤（フタル酸エステル） 35質量% 安定剤 3質量% 顔料等 2質量%
固定プレート	塩化ビニル樹脂被覆鋼板：厚さ1.2mm 塩化ビニル樹脂層厚さ0.6mm 鋼板厚さ0.6mm
固定ディスク	塩化ビニル樹脂被覆鋼板：厚さ0.7mm、径40～90mm 塩化ビニル樹脂層厚さ0.1mm 鋼板厚さ0.6mm ・固定ディスクの形状を図2に示す。
固定アンカー	鋼製またはステンレス鋼製アンカー： 径6～10mm、長さ30～200mm
くぎ、またはねじ	鋼製くぎ(JIS A 5508)または鋼製ねじ： 長さ40～100mm、径4～8mm

単位 mm

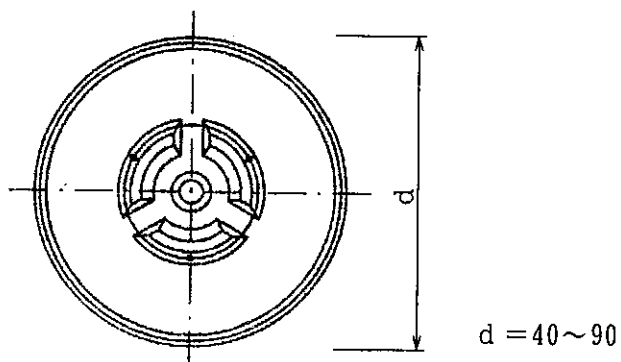


図2 固定ディスクの形状

5. 構造説明図

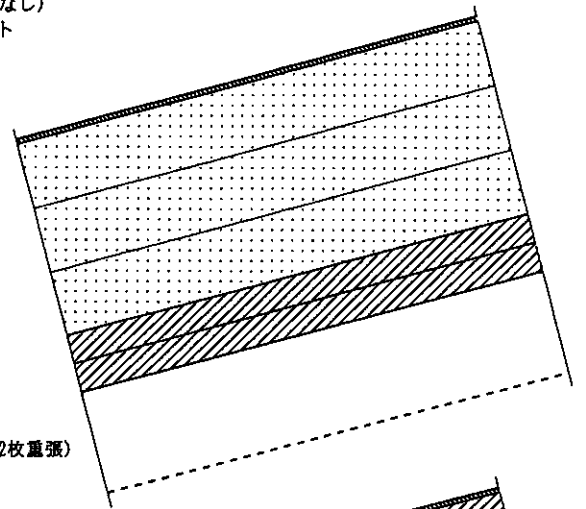
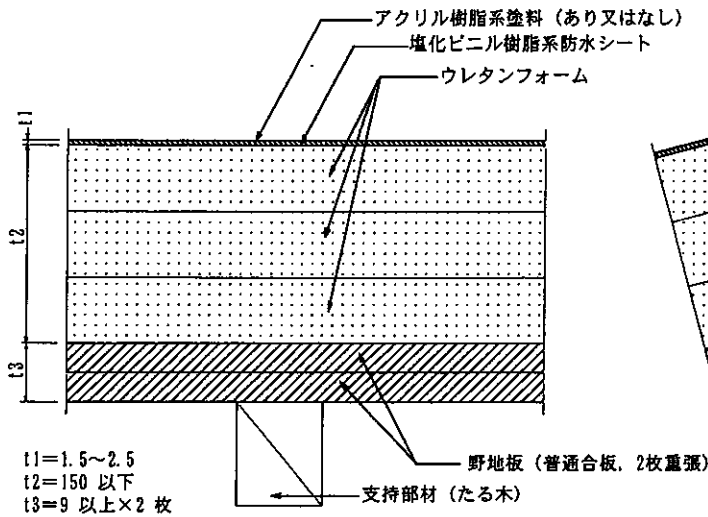
申請仕様の構造説明図を図3に示す。

単位 mm

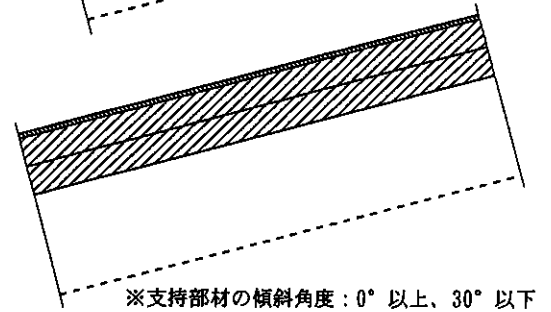
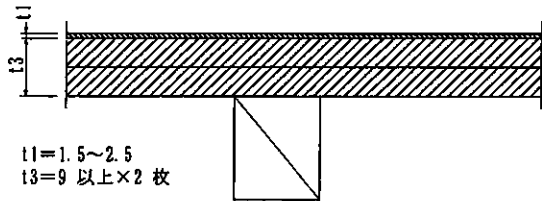
<幅方向断面>

<傾斜方向断面>

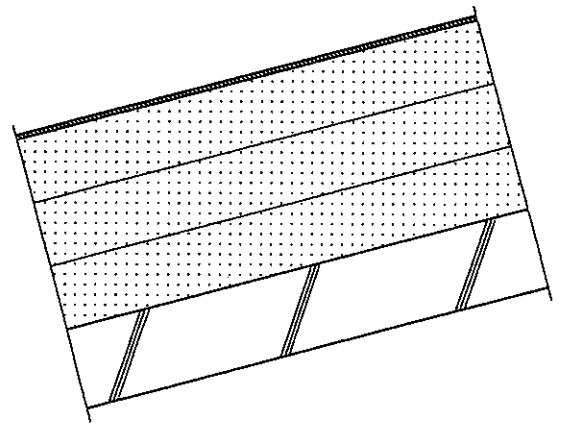
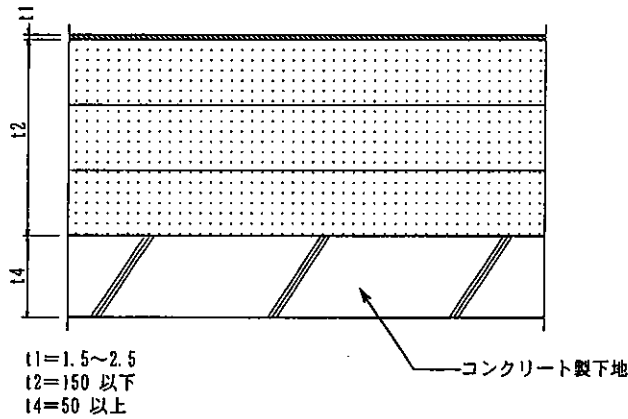
木製下地でウレタンフォームを使用する場合



木製下地でウレタンフォームを使用しない場合



コンクリート製下地でウレタンフォームを使用する場合



コンクリート製下地でウレタンフォームを使用しない場合

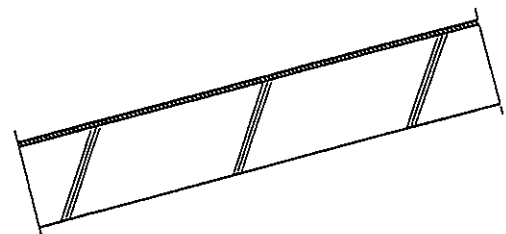
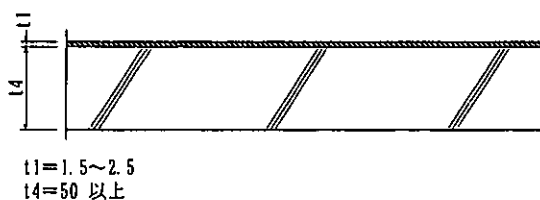


図3 構造説明図

6. 施工方法

申請仕様の施工図を図4～図6に示す。

施工は以下の手順で行う。

1) 下地

- ・ 下地の勾配（傾斜角度）は0° 以上、30° 以下とする。
- ・ 支持部材（たる木）を用いる場合は、たわみが生じないように、施工間隔は455mm以下とする。
- ・ 野地板を用いる場合は、厚さ9mm以上の合板を2枚張りとし、くぎ、またはねじにて固定する。
- ・ 目地あき、目違いは平滑な状態に修正する。
- ・ 平坦でむらがなく、脆弱部及び突起部などの欠陥がないこととする。
- ・ 十分に乾燥する。

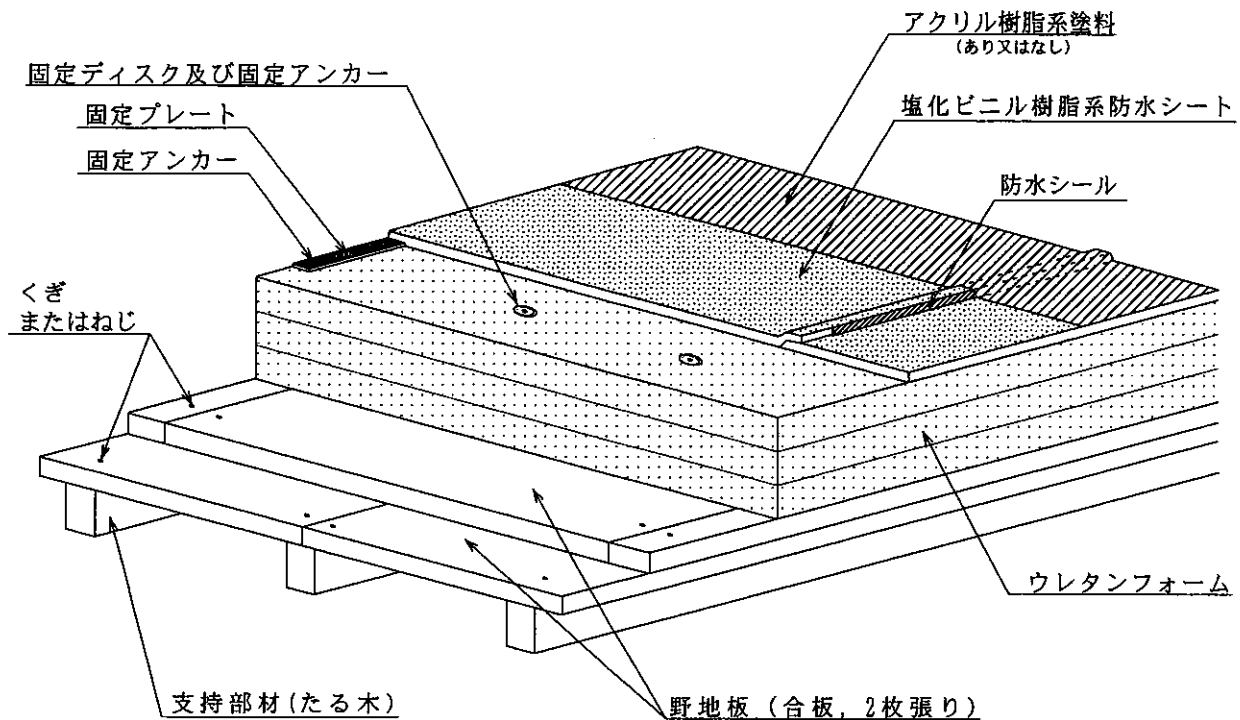
2) 塩化ビニル樹脂系防水シートの施工

- ①断熱材を用いる場合は、下地にウレタンフォームを施工する。
- ②ウレタンフォームはウレタンフォーム上に固定プレートと固定ディスクを設置し、固定アンカーで固定する。
- ③塩化ビニル樹脂系防水シートを固定プレートと固定ディスク上面の塩化ビニル樹脂層に、溶剤による溶着で固定する。シート同士の接合部とディスクは重ならないように配置する。
- ④塩化ビニル樹脂系防水シート同士の接合部は、40mm以上を重ねて溶剤による溶着、または熱による熱融着を行う。
- ⑤接合部端末には防水シールを施工する。

3) アクリル樹脂系塗料の施工

- ・ アクリル樹脂系塗料を施工する場合には、塩化ビニル樹脂系防水シートの表面にを塗布し乾燥させる。

ウレタンフォームを使用する場合



ウレタンフォームを使用しない場合

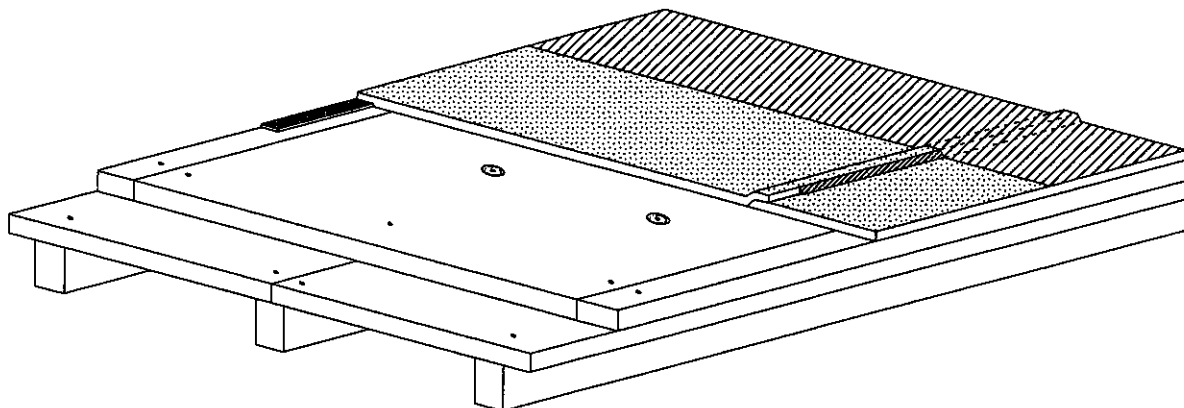
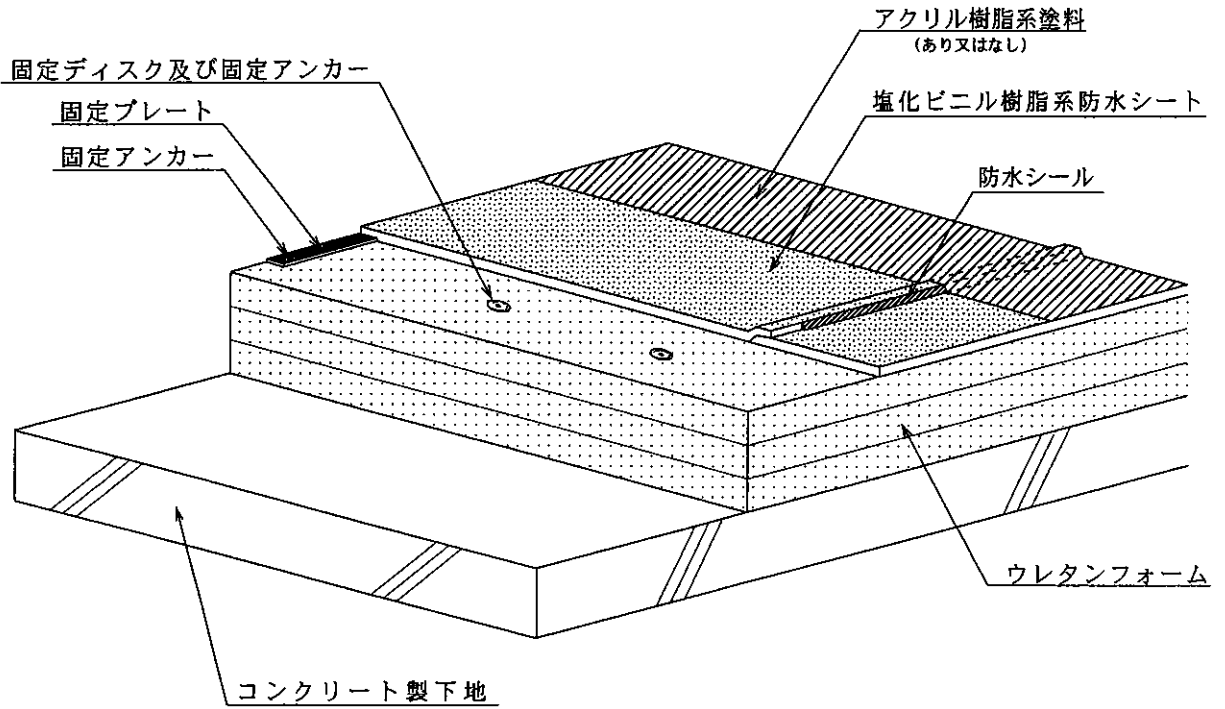


図4 施工図 (木製下地の場合)

単位 mm

ウレタンフォームを使用する場合



ウレタンフォームを使用しない場合

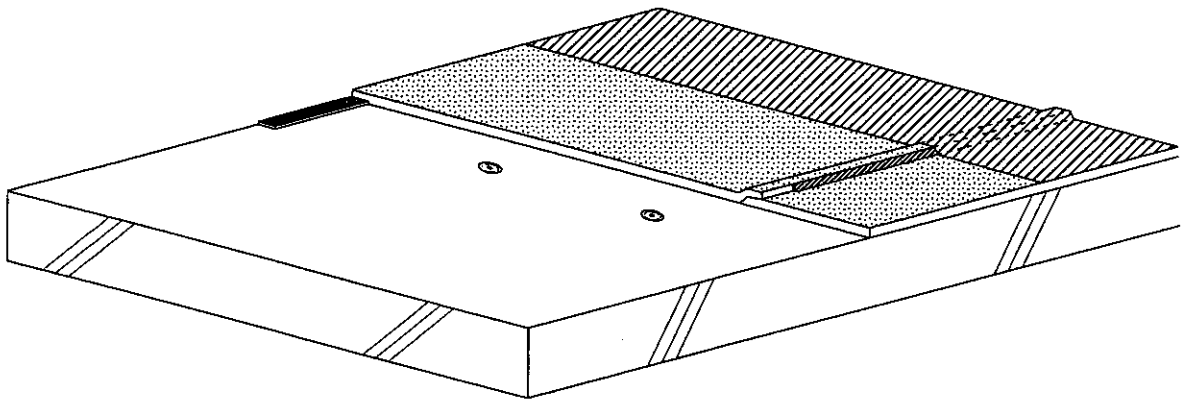


図5 施工図 (コンクリート製下地の場合)

単位 mm

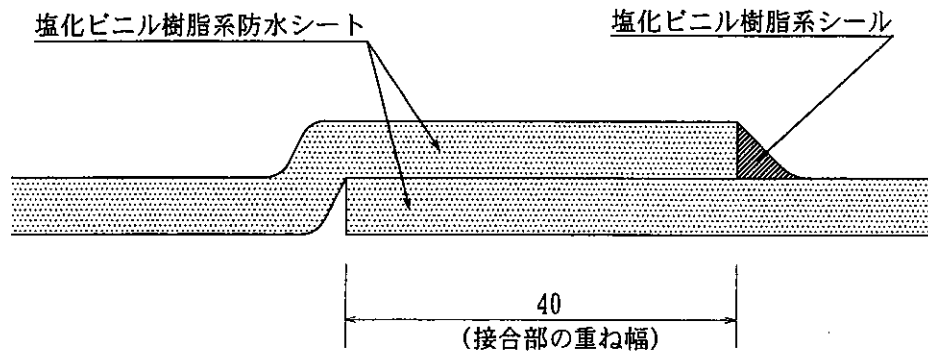


図6 施工図 (塩化ビニル樹脂系防水シートの目地部断面)